

陸前高田市議会会派

# 新星会

発行

平成20年3月28日

陸前高田市議会会派「新星会」

発行責任者 福田利喜

陸前高田市小友町字谷地館2 1

※この会報は、政務調査活動の一環として、政務調査費を使用しています。



先人たちの技術と知恵を見つめ直すことから何かが生まれる。(気仙大工伝承館かな展)

## ご挨拶

昨年の市議会議員選挙を受け、新たなメンバー五人で市議会会派「新星会」活動を行ってきました。

少子高齢化が進む陸前高田市において、行政が議会が今取り組まなくてはならない課題は何か、解決の糸口になるものは何かを求めて五人で、時にはもっと多くの人を交えて議論・研究してきました。

これからも今を生きる私たち、そして子どもたちが暮らす未来につなげるために、「今、何をなすべきか」を基本理念に、政策提言を交え、是非々の立場で市政へ参画してまいります。

次ページから始まる会派の座談会では、それぞれの議員が自分の考えを話しています。紙面の関係から言葉足らずになっているところも多々ありますが、次号やこれからの活動の中で、皆さんとお話をしていきたいと思っております。

今後とも、新星会の活動にご支援賜りますようお願い申し上げます。

新星会会長 福田利喜

# 方向は何か 雇用の場の確保、合併は



**福田** 皆さんご苦勞様です。三月定例会も終わり、年度末のお忙しい中日程を割っていただきました。さて、去年の四月に市議会議員選挙が行われ、新たにこの五人で「新星会」を構成してきたわけですが、いかがでしたか。特に、新たに議員になられた清水幸男議員いかがでしたでしょうか。

**清水** 役所のことについては、前の職場の関係でいくらか知っていたつもりでしたが、議会は見るも聞くもまったく初めてで、右往左往の一年だったような気がします。そんな中、新星会に所属できたことは自分にとってはとても大きかったと思っています。

**福田** 清水さんとは私も、そして広田出身の小松、西條の両議員は

今まで一緒に様々なことをされていたわけですので旧知の間柄でしたが、佐藤信一議員とも前からのお知り合いだそうですね。それから、新星会に入ってよかったとのことでしたが、どのような点がよかったと感じていますでしょうか。

**清水** はい、消防や業種は違えども一次産業に携わるものとして存じておりました。会派に所属できたということは、議会のルールや慣例などを率直に聞くことができたり、一般質問をはじめ様々な質問の仕方や、予算書や決算書などの議案の見方からしっかりと教えていただいたことですね。一人では、理解するまでにまだまだ時間がかかったのではないかと感じています。それから、新星会では臨時会でもですが定例議会ごとに議案の勉強会を行っていることでしょうか。会派の勉強会では議案の主眼点や疑問に思うことなどを議論しながら教えていただいた点など、本当にこの一年間の議会活動では役立ちました。

**福田** さて、環境が大きく変わっ



たという点ではあとお二方いらっしゃいますよね。二期八年間議長として陸前高田市議会を牽引されてきた小松議員さんですが、この度後進に議長の職を譲られて、一議員として活動されてみていかがでしょうか。

また、西條議員さんは小松前議長の後を継いでとは言っては失礼ですが、議長に就任されました。一年間議長の職務を経験されたいかがでしょうか。

**小松** 前任期までの八年間は、議会はどうあるべきかを考え続けた八年間だったと感じています。議長職は、議会を代表するにとともに私は「万機公論に決すべし」を旨として議会運営を行ってきました。広く議論を行える議会にした

# 今、本市が進むべき 基幹産業の振興・



いと思つて運営してきたつもりです。その点については、新星会の皆様の協力に感謝いたします。議長の仕事の任を離れてみますと、議長の公務の多さから開放されたな、今後は初心に帰つて議会活動をしようというような気持ちですね。

**西條** 皆さんの協力のおかげで、一年間議長の職をこなしてきたなというのが率直な感想です。それから、今小松前議長がお話になられました、議長の公務の多さ、出張の多さにびっくりしています。ただ、様々勉強する機会や情報に接する機会も多いので、新時代の議会運営についても議員の皆さんとともに考えて生きたいと思つています。

**福田** 新時代にあつた議会運営とは、具体的にはどのような議会にしようと思われていますか。

**西條** 議会は、「チェック機関」から「政策提言」へと地方分権の流れが行つていきますし、法律制度等もそのように整備され始めています。これからは、出されたものを良い悪いのチェックだけでなく、陸前高田市の発展と市民の生活向上のためにどうしたらよいかということを経験して、議論を通し政策提言できるようにしたいと考えています。

**福田** 今、西條さんから政策提言ができるような議会にしたいとお話がありました。では、本日の新星会座談会の主題に入りたいと思います。陸前高田市はどのような進むべきか、どのような振興策があるかということについて皆さんの考えをお願いします。最初に、新星会の幹事長である佐藤信一議員をお願いします。

**佐藤** 私はかねてから主張してきたことは、明確なビジョンをもつて陸前高田市の方向性を示すべきだといってきました。そのためには、市長のリーダーシップが不可欠だと話してきました。二期目に入った中里市長からは、明確なメッセージが伝わってこないよう

に感じています。特に、本市の基幹産業である一次産業については、生産から食育に至るまで一貫したポリシーを持つて進めるべきと考えています。今期定例会の予算審議の中でも言いましたが、基幹産業の一つである農業の振興のためには、せっかく本市にある有益な拠点施設の総合営農指導センターを本来の設立目的にあつた、後継者育成から、農地情報の提供、生産技術の指導、販路の拡大、そして加工品の開発などトータルな営農指導施設として機能させるべきと提言しましたが、JAの環境等から今のJA陸前高田市の本所を活用して農政の推進機能を持たせるとのことでしたが、分散より集中してトータルな営農行政をするときであると考えています。

また、学校給食をはじめとし



た食育の充実が、本市の一次産業の振興にもつながると考えますので、今年はこの点についても勉強していきたいと考えています。

**福田** 清水議員も一次産業の振興を主張されてきましたが、いかがでしょうか。

**清水** 私も、本市の振興には一次産業の振興が不可欠と考えています。議員になる直前まで漁協の参事をしていた関係から、どうしても漁業に目が行ってしまいうわけですが、「浜が元気でないと陸も元気にならない」との言葉があるように、水産業が元気でないと本市の経済も元気が無いと思っています。外貨を稼いでいるのは水産業



であると思います。是非、この水

産業を活性化させなければならぬと考えています。後継者対策や魚種・漁場など解決しなければならぬ問題も多々ありますが、出来ることから、そして、タイムリーなものから施策として実施することが必要だと感じます。その点、カキの生食用出荷に対するノロウイルスの自主検査費用の助成が、昨年9月議会で補正予算として計上され実施されたことは、少ない予算でしたが本当にタイムリーかつ効果的な施策だったと思っています。

今後も、一次産業の振興をとおして陸前高田市が元気になるよう当局とは是非の議論をしていきたいと思っています。

**福田** 私は、現在本市が抱えている最大の行政課題は雇用の場の確保だと考えています。これまでの議会・議員としての活動もそうでしたが、ここ一年の活動でもそう思っただけで発言を行ってききました。新規の誘致企業は一朝一夕にナント力なるものではないと思っています。だからこそ、息の長いそして



積極的な活動が必要だと言いつけてきました。また、雇用の場の確保は他の市町村との競争です。その居層を勝ち抜くためには、どうあるべきか、企業誘致担当者だけでなく市民全員が情報の発信者になるような、他の地域と少しでも差別化できるような施策が必要と主張してきました。その一つ

が、本市が持つ市有地の有効活用です。しかし、今ある制度の枠からはみ出さない方策しか打ち出しません。これでは、よその市町村と同じであり、内陸部と比較し交通に係るハンディキャップを持つ本市が勝つことは難しいと考えます。是非、既存企業の信頼を得ることとあわせて、これからも雇用の場の確保を最優先課題として取

り組みたいと思っています。

また、雇用の場の確保や教育環境の充実などのためには、合併も手段の一つとして選択肢に入れるべきと考えています。企業が進出するには、労働力それも質の高い労働力が必要といわれています。そのためには、ある程度の人口と、人材を供給する教育機関が必要となります。この点から考えても、本市が単独でこれらを充実できる環境に無いことから、早い段階での合併について本格的な議論が必要と考えています。

**西條** 合併については、私も主張してきた一人であります。議員の



一人としては会派の皆さんとも議論をしていきたいと考えています。

私は、議会改革も急務だと考えており、今般、議員のみなさんのご理解を得て検討する会を立ち上げていただきました。小松議員にはその座長をお願いしました。ご苦勞をおかけすることとなりますがよろしくお願いいたします。本市の発展のためには、議会の活性化が必要と考えておりますので、会派の皆さんにもご協力をお願いいたします。

**福田** 小松議員さん、いかがでしょうか。

**小松** そうですね。議会の活性化が求められてしばらくになり



ますが、まさに議会の質が代わらなければならぬ時期に来ているのではと思っております。議会と住民の関係、議会と市当局との関係を今一度見つめなおす必要性を地方分権推進委員会では言っているような気がします。是非、この点については西條議長を先頭に頑張っていきたいと思っております。

また、本市の活性化については、これまでみなさんがおっしゃってきかたとおりでと思います。先般も会派の研修の一環として、関東自動車工業岩手工場や、宮城県大郷町の第三セクターなどを視察してきましたが、様々な方法があり本市にとってどれが正解かはわかりません。しかし、積極的な行動がまちづくり、市の活性化に必要なと感じています。

**福田** みなさんありがとうございます。今後も、様々な機会を通して我々新星会の考え方や、議員活動について議論をしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。

## 宮城県大崎市・福島県川俣町・宮城県大郷町にて

### 商店街の活性化・定住促進事業等を視察

二月十二日と十三日の両日、管外視察を行いました。視察の目的は、地域活性化を主たる目的として、宮城県大崎市では鳴子地区で行っている「一店逸品運動の取り組みについて」、福島県川俣町では「定住促進・UIターン支援事業の取り組みについて」、二日目は、多賀城市に本社工場を持つツカメの囲うトップメーカーである理研食品株式会社を訪問し、意見交換と工場見学を、宮城県大郷町では「緑の郷・貸し農園について」を視察したところです。

大崎市鳴子地区の商店会では、情報発信が集客につながることを、情報紙を作成し個店の魅力を掲載することなどに工夫をされてきました。このような事業を展開するには、リーダーとそれを補佐する数人の強力なスタッフがいることが成功の条件のようでした。

川俣町では、UIターン希望者へのアキや情報の提供を積極的にやっていることと、定住の条件と

して町の慣習や住民と協調できるかなどを事前に説明し、移住後のトラブル防止に努めており、成果をあげていました。理研食品では、社長さんをはじめ会社幹部の方々と意見交換を行ったところでした。本市のワカメ生産に大きな期待をしているとのことでした。

大郷町の第三セクターで運営している貸し農園と、宿泊施設、レストランを視察し、社長さんと支那人から現状の説明を受けたところです。考え方が、完全に民間経営であり、その中に地域発展を上手く取り入れて運営されていることを感じたところです。



# 関東自動車工業株 岩手工場を視察

金ヶ崎町にある関東自動車工業株式会社岩手工場を視察してきました。会派活動の一環として訪問したもので、工場の概要とともに、第二ラインの見学、そして工場幹部との意見交換を行ってきたところです。

関東自動車様への訪問は、福田会長、小松真議員、佐藤信一議員に菅野広紀議員を加えて行ったところです。午後一時三十分から約三十分の会社と岩手工場の概要の説明を受けた後、ベルタを主として生産している第二ラインを見学してきました。

工場内は、整理整頓はもちろんですが、様々な面に配慮され、安全・品質とも世界トップ水準の企業であると実感したところです。特に、岩手工場の第二ラインはトヨタ全工場の中でも唯一全車品質管理を行っているラインで、ネジの締め付け一つについて

もセンサー付工具で作業をし、全ての記録が残るシステムには感心させられたところです。

工場には約三千八百人の従業員が働いているとのこと、さらに工場内にある部品納入メーカーの生産工場や、周辺にある関連企業を含めるとその数は計り知れないものとなりました。

一時間半の生産現場の見学の後、関東自動車岩手工場の幹部の



方々と意見交換をさせていただきましたが、その中でも貴重なご意見を頂いてきました。我々としては、一社でも部品納入メーカーをはじめ関連企業を陸前高田に是非誘致したいの思いでいたわけですが、どうしたら関連企業等にアプローチできるのか。最初から新規立地を追い求めるのではなく、市内にある既存企業とどのようにつないでいくことが大切であるかなど、すぐにでも陸前高田市として行動できる種を頂いてきた視察となりました。

宮城県大衡村に新規立地の決まったトヨタの車体組み立てメーカーであるセントラル自動車とともに

に、関東自動車岩手工場はトヨタの中京地区、九州地区につづく第三の国内生産拠点となることは明らかで、同じ地域にエンジン製造工場の立地も決まりました。盛岡から仙台までのラインに少しでも繋がりをもち、就労の場の確保を図るにはこの上ないチャンスが今であると感じています。我々は、議会活動等を通し雇用の場の確保・拡大にこれからも努力してまいります。

視察当日は、海外からの視察に加え、様々な認定審査など多忙なところの視察でしたがとても丁寧に対応していただき本当にお世話になりました。

会社としても、岩手に来てよかつたとの想いがあるとのことでしたし、毎年広田半島大漁祭りには、会社の行事として大型バスを連ねて参加しており、陸前高田の人たちには良くしていただいているとお声も聞かれたところです。

また、今回の視察に対しご尽力頂いた関東自動車工業株式会社岩手工場の皆様、協力会社の会の皆様に厚く御礼申し上げます。

## 鈴木県地域振興部地域支援室長を招き

# 沿岸・県北振興策を学ぶ

八月六日、鈴木健夫岩手県地域振興部地域支援室長を講師に迎え、新星会主催の沿岸・県北振興についての研修会を、市役所三階委員会室をお借りし開催いたしました。

この研修会には、友好会派である新志会さんと市の企画部の方々にも参加頂いたところで、

岩手県が進める沿岸・県北振興策を直接の担当課である地域支援室長から、県の考え方、これからの振興策の方向性や様々な制度に



ついでお話を頂き、特に陸前高田市を含めたこの圏域の振興策について詳しく説明を頂いた後、参加者との質疑・意見交換を行ったところで、

鈴木室長は、沿岸・県北といっても地域によって様々な振興策が考えられるが、特に陸前高田は様々な地域資源があることから、これらを活かした振興策を県と地域が一緒になって進めたいのとこのことでした。他の地域から見ると、

## 県内の地方自治関係者と交流

### 岩手まちづくりサロンへ参加

岩手まちづくりサロンに研修の一環として参加しています。岩手県内には、地方自治制度の研修とともに、地域発展の方法を考えるグループがあり、様々な活動を行っています。「まちづくりサロン」を主催している岩手自治体学会も

うらやましい限りの地域資源と環境であるとの話もされたわけですが、どうしても県央部や北上川流域地域と比較すると見劣りしてしまふとの我々の意見に対し、同じ方向を向かなくてもこの地域が持っているものを活かす方法はあるのではないかと話され、我々も外からこの地域を見る必要もあると実感した研修会となりました。

新星会としては、今後このような県を交えた研修会や意見交換会を開催し、外から見た陸前高田市と、自分たちが感じる陸前高田市を比較しながら発展の道を探る研修会を今後も開催してゆく予定です。

この団体の運営委員を担っている一人です。活動は、相互の情報交換と地方自治を取り巻く様々な制度の研究等ですが、その中心が、毎月一回のペースで開催している「岩手まちづくりサロン」です。

新星会では、政務調査活動の一環として会員に呼びかけ都合のつく者が参加しています。ここ最近では、「指定管理者制度の光と陰」という勉強会には、小松眞議員と福田利喜議員が参加してきました。本市でも公共施設の管理運営に活用している指定管理者制度について、実際の運用実績をもとにいわてNPOセンターの高井理事長の講演と意見交換会が行われました。その中で、指定管理者制度は単に行政の下請けになってはいけません。施設の設置者（県や市町村）、管理受託者（指定管理者）、サービスを受ける者（住民）の三者がともに利益を受けるものではないこと、そうでなければ早晩この制度が単に経費削減のための下請け制度になってしまうこと。指定管理者が事業を受託することから発生する利益の還元のある

り方などが参加者から活発に発言されました。参加した小松眞議員からも陸前高田市における指定管理者制度の実際などが紹介され、講師や参加者から様々なアドバイスを頂いたところでした。

その前に行われた、「紫波町管理型浄化槽整備事業（PFI型合併浄化槽整備事業）の展開と今後

## 地方議会議員セミナーへ参加

### 新たな時代の議員役割認識

「自治体財政健全化法施行にと  
もなう地方議員の役割とは」と題された地方議会議員セミナーへ参加しました。盛岡市で行われたこの研修会は、行政や議員向けの本を中心に出版している第一法規株式会社主催したもので、会派から公務出張等で参加できかねた西條、福田の二名を除く、佐藤信一議員、清水幸男議員、小松眞議員が出席したところです。

当日は、同志社大学大学院総合政策科学研究科教授の新川達郎氏の基調講演と、「行政改革の視点と方向」と題した東北公益文化大

の展望について」には、福田利喜議員が参加し、行政におけるPFI制度導入の実際について研修をしてきたところです。

今後も、機会を捉え新星会の政務調査事業の一環としてこのような研修会に積極的に参加しようと考えています。

学の和田明子准教授の講演が行われました。

地方自治体の財政破綻にみられるように、市町村の財政状況が益々厳しくなる中で地方議会議員のあり方については、住民と行政のパイプ役から「チェック役」「監視役」へと変化していること。政策を立案する役割もまた強く求められていることなどが講演されました。

この講演会をとおし、議員個々のスキルアップとともに会派など政策集団としての議員の役割を改めて認識したところです。

よろしく願いいたします



清水幸男

事務局長  
産業建設常任委員会副委員長

佐藤信一

幹事長  
教育民生常任委員会委員長

小松 眞

顧問  
総務常任委員

福田利喜

会派代表  
議会運営委員長

西條 廣

顧問  
議長